

AIを活用したシニアマッチング事業（GBER）のモデル事業の結果 と今後の進め方について

1 主旨

区では、令和2年度より身近な地域での、「居場所づくり」「健康づくり」「地域参加・地域貢献」「知と学び」「就労・就業支援」の5つのプロジェクトで構成する「高齢者の地域参加促進施策」に全庁を挙げて取り組んでいる。

このうち、「就労・就業支援」プロジェクトである「AIを活用したシニアマッチング事業（GBER）のモデル事業」の結果と今後の進め方について報告する。

2 これまでの取り組み

本事業では、シニアの経験等を生かし区内事業者が抱える課題の解決に向け、令和2年度より東京大学先端科学技術研究センターが開発するマッチングサイト「GBER」を使って、就労マッチングのモデル事業を行った。また、シニアと事業者双方の意見を取り入れるため、ワークショップやイベントを行った。

また、ワークショップでの提案から事業の愛称を「R60-SETAGAYA」とし、新たなシニアのキャリアプランを提示しながら事業を進めた。

(1) 事業概要

① 対象

60歳以上で区内在住の方

② 事業開始

令和3年1月

③ 主な取り組み内容

- ・仕事の開拓と事業者に対して仕事の切り出し等の提案、案件化
- ・ワークショップやマッチングイベントの開催
- ・仕事の本質を文章で伝える求人情報の作成やSNSやブログによる情報発信

(2) 実績（モデル事業期間）

- ・シニアの参加者数 119名（65歳未満45%、65～74歳45%、75歳以上10%）
- ・事業者の参加者数／仕事の数 27社／70件
- ・イベントの開催数／参加者数 23回／149名（延べ参加者数）
- ・マッチング数 4件 ※そのほか選考中24件

(3) モデル事業のアンケート結果

別紙参照

(4) モデル事業の検証結果と課題

① 検証結果について

- ・ITや機械系の企業での経験、語学など専門性や資格を有する参加者が多かった。
- ・シニアから事業者に業務の提案をするなどの新たな交流の場が生まれた

- ・事業者からは、参加者との対話を通じて良好な関係を築き、安心して雇用することができたとの声が聞かれた。また、理解が進むにつれ、多くの仕事が掲載された。

② 課題

- ・参加者の希望にあった仕事のさらなる開拓の必要性
- ・顔の見える関係性を築く場の必要性（イベントや仕事体験）
- ・参加者が一步を踏み出すことをサポートする支援の必要性
- ・スマートフォンやパソコンに使い慣れないシニアへの対応の必要性

3 令和4年度の取り組み方針

モデル事業の課題をふまえ、令和4年度以降は本事業をGBERのシステムから既存の三茶おしごとカフェに移行し、スケールメリットを活かした新たな業務の発掘につなげ、多様なシニアのニーズに応じていく。

また、これまでのモデル事業等を通じて取り組んできた委託案件等についても、三茶おしごとカフェで引き継ぐとともに、事業の充実を図るため以下4点について重点的に取り組む。

(1) 対象年齢の拡大

モデル事業では、年齢が50代後半の方から問い合わせも多かったため、対象年齢の下限を60歳から55歳に変更する。

(2) 事業者の開拓

令和3年度に参加した事業者の仕事を好事例として展開し、新たな事業所の仕事を獲得するとともに、求人情報のライティング・ビジュアル化を強化しシニアへの訴求を高める。あわせて事業者に対して、シニア人材の得意分野や特技、専門性などを提示する。

(3) 事業者とシニアの出会いの場の設定（マッチングイベント）

モデル期間中の顔の見えるイベントの実施により「困っている地域の事業者に協力したい」、「シニアが人材の宝庫であることに気が付いた」といった意見が出るようになったことを踏まえ、事業者とのマッチングイベントや事業者が主催する仕事体験会等のイベントを案内する。

(4) 各産業の魅力および課題の共有

モデル期間で実施したSNSやブログを継続し、事業コンセプトと地域で働く魅力について発信し、シニアの新たなキャリアプラン（＝仕事を通じた地域でのシニアの生き方）を提示していく。

4 令和4年度の実施内容

(1) 運営主体

公益財団法人 世田谷区産業振興公社 三茶おしごとカフェ

(2) 対象

55歳以上の区民

(3) 令和4年度予算（案）

事業者の開拓と仕事情報のライティング・ビジュアル化、マッチングイベント等の開催、SNSによる魅力発信等 5,810,000円

(東京都地域産業活性化計画事業費補助金を活用。補助率1/2)

(4) 令和4年度予定数量(目標)

仕事の案件数 80件

マッチング件数 48件

(5) 今後の東京大学先端科学技術研究センターとの協力について

今後はマッチングサイト「GBER」を使用しないが、「GBER」の開発者である檜山敦特任教授の「高齢者が自らの可能性を十分に発揮して若者を支える社会づくり」等、高齢者が仕事を通じて地域とのつながりを進める観点から引き続き連携を深め、助言を受けながら事業を進めるものとする。

参加者(区民)アンケート ※回収25名

Q1.本事業での仕事の案件について

A1.期待した仕事があり、実際に仕事をした。3名

期待した仕事はあったが、勤務場所や待遇の条件があわず仕事をしなかった。2名

期待した仕事はあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により仕事をしなかった。3名

期待した仕事はなく、仕事をしなかった。16名

その他1名

Q2 本事業を通じて生じた変化を教えてください。

1.地域での仕事について興味が沸いた（非常に/6名・まあまあ/14名・変化はなかった/5名）

2.地域の事業者の活動を知り、仕事（協力）をしたいと思った。

（非常に/6名・まあまあ/13名・変化はなかった/6名）

3.地域の方々とのワークショップやイベント等を通じて考え方が変わった。

（非常に/3名・まあまあ/6名・変化はなかった/16名）

Q3 GBERの使いやすさ

（非常に・概ね）使いやすかった/5名・普通/11名・やや使いづらかった/6名）

Q4 掲載する仕事は、地域の事業者の魅力や仕事のやりがいや伝わるものになっていましたか？

（非常に・概ね）伝わった/15名・普通/6名・（あまり・全く）伝わってこなかった/4名）

Q5 今後R60-SETAGAYA-に期待することは何ですか（複数回答）

自分の希望にあった仕事の開拓/16名

事業者の仕事内容がわかるイベントの開催/11名

仕事体験の案内/8名

これからの就労について考えるセミナーの開催/5名

個別カウンセリング/4名

相談員による仕事紹介・マッチング/4名

相談員によるきめ細やかなフォローやアドバイス/3名

事業者へ自分自身のプロフィールの開示/1名

その他/2名

事業者アンケート ※回収23社

Q.本事業を通じて生じた変化を教えてください。

1.仕事の切り出しや新たな提案により生産性向上や業務効率化につながる可能性を感じた

（非常に/5社・まあまあ/10社 変化はなかった/8社）

2.ワークショップやイベントを通じてシニアの働き方やキャリアへの見方が変わった

（非常に/4社 まあまあ/8社 変化はなかった/11社）

3.地域の他の事業者の考え方に影響を受けた

（非常に/5社 まあまあ/5社 変化はなかった/13社）

4.地域への理解が深まった、親しみや愛着が湧いた

（非常に/3社 まあまあ/9社 変化はなかった/11社）